SDGs発展2 最終レポート課題

学籍番号：2322003

氏名：阿部佑哉

【発表内容】

私たちが提案するVRシステムは、汚れた海の環境を再現し、ゴミ掃除を体験するVRシステムだ。

このシステムによって、人々の海洋環境を守ろうという意識を促進させることができ、プラスチックごみなどを削減することによる海洋環境の保全、改善につながると考えている。

このシステムを作成する方法だが、まず前提として、ゴミ掃除を行うという点においては「自分自身が海に潜って掃除をする」のではなく、「海中の掃除を行うドローンのようなロボットを操作して掃除をする」という設定にしようと思っている。そのため、使用するデバイスはHMDとコントローラーになっている。システム面としては、まず綺麗な海をVR空間上で再現し、それが汚れていく光景を見せる。その後、ドローンを操作してゴミを掃除していくゲーム感覚のシステムを想定している。また、ゴミの中には、海中を揺らいでいるものや、魚に巻き付いているものなど様々な種類を用意する。

【相互評価の考察】

　全体的に多かった意見としては「ゲーム感覚でor魚目線でゴミ問題について考えられる点が面白い」「海のゴミ問題というテーマに対して需要がありそう」といったテーマに対するプラスの言葉や、「コントローラーで操作するのでは結局体験としての目新しさに欠けるのでは」というシステム面について触れているものがあった。海の汚れていくところを見せてからゴミ掃除をさせる、魚目線という点は特にこの班のテーマとして重要な点だと考えているのでそこが評価してもらえたのはありがたいが、問題はコントローラーを使用する点に関して言及されたことである。今回の発表では「ドローンを操作する設定」という部分を省いてしまったためにコントローラーを用いる意図が伝わらなかったのだと考えているが、たしかに、VRで行える以上、実際に自分が潜って自分の手でゴミを片付けるというシステムの方が、環境に対する意識がより自分ごとに感じられるのではないだろうか。そういった改善点が今回の相互評価から見つけられた。